

平成 30 年度 第 2 回海洋科学高校協議会 議事録
(学校運営協議会)

- 1 日時 平成 30 年 8 月 2 日 (木) 15 : 00 ~ 16 : 10
 - 2 場所 MS 棟ガイダンスルーム
 - 3 出席者 亀澤委員、山田委員、松村委員、仲亀委員、金子委員、篠田委員、校長
 - 4 進行 司会 教頭 記録 松本教諭
- (1) 校長挨拶 近況報告 4 月から多くの生徒は落ち着いている。来年度の生徒募集に向け教育内容の PR を積極的に行っている。企業から多くの求人がきている。部活動の活性化に向け尽力している。高大連携では東京大、東京海洋大、東海大と連携している。
- (2) 会長挨拶 2 年湘南丸総合実習で子どもの成長を感じる。
- (3) 評価部会
- 各グループより取り組みの説明 (別紙資料有)
 - ・研究開発 G 組織的授業改善、授業評価アンケート結果について
 - ・専門教育 G 課題研究発表予定について
 - ・生徒支援 G 部活動の現状について
 - ・進路支援 G 進路希望状況、インターンシップ参加希望状況について
 - ・広報地域 G 広報活動について
 - ・今年度の取り組みと生徒の活動について
 - 各委員より質疑・意見
 - ・委員 女子生徒が少ないと聞いたが、女子が増えると定員割れ問題は解消するのではないか。
 - ・校長 ここ 3 年は 1 学年 20 名を切っている。女子の減少と定員割れは関連がある。以前は近隣中学から食品への希望者が多く入学した。
 - ・委員 女子は 15 歳の時点で男子より職業に対する目的意識を持ちにくいのではないかと。水産科に限らず、職業高校を敬遠し普通科を目指す傾向がある。
 - ・委員 授業アンケートの結果を見ると、教員の努力が見られる。部活動加入率が低いのは社会性も身に着くのに残念。インターンシップは受けるメリットをもっと生徒に伝えてほしい。近隣の自衛隊との連携も視野に入れてほしい。
 - ・委員 県内唯一の水産高校のビジョンをこのまま持ち続けてほしい。企業からの求人が多いことや、専攻科への進学などもっと PR してほしい。部活動はこの学校の生徒の現状にあったスタンスを取れば増えるかもしれない。むりやり加入させるものでもない。
 - ・委員 指導者の不足で部活動が不活性になることはないのか？
 - ・校長 水泳部、ウエイトリフティング部等は顧問が熱心である。本校は自主的に活動するのが苦手な生徒が多いのでその可能性はある。教員も生徒指導や補習などで多忙な面もある。
 - ・委員 県は放課後の補習などに補充をつけてくれるか。
 - ・校長 昨年度はサポートティーチャーを英検補習、英語補習で活用した。今年度、サポートティーチャーは家庭科などで活用している。
 - ・委員 長井海洋実習場など学校施設、教育内容の PR をさらに増やした方がよい。